

家庭、園・学校が ともに育ち合うための手引き

生活習慣・学習習慣・食育研究部会で作成した「家庭、園・学校がともに育ち合うための手引き」の中から、乳幼児期子育てQ&Aの一部を紹介します。家庭教育の参考にしてください。

子育て Q&A

Q 忙しいときぐらいいは、テレビやビデオ、ゲームを見せてもよいのではないですか。



テレビやビデオを見せている間に「家事をやってしまおう」という気持ちは分かりますが、頼りすぎてついつい長時間見せていませんか。

<テレビ、ビデオのプラス面>

- ・ 興味のあるものを見たり、何度も繰り返し見たりすることができる。
- ・ 音やさきれいな色の映像が感動的である。

<マイナス面>

- ・ 一方的に与えられる映像と音で受け身の状態が続くことにより、自分で実際に経験し、感じとり、学ぶことができにくい。
- ・ 自分の思いを言葉や態度で表現することが苦手になる。
- ・ 視力低下へとつながることがある。

おとなしくしているから、家事ができるからと、何時間も見せたりせず、

「見る時間を自分で決めさせる」

「見る場所（距離）を決める」など

約束をすることが大切です。



Q 家では、ささいなことでしょっちゅう兄弟げんか

Q 嫌いなものを食べようとしません。無理に食べさせなくてもいいですか。



基本的には、兄弟げんかには、親は立ち入らない。（子ども同士のけんかにも親は立ち入らない。）これが原則です。

子どもは、けんかによって人間関係を学んでいきます。

たとえけんかしていても、次の日はお互いケロツとして一緒に遊んでいます。それに大人が介入すると、かえってこじれることが多いです。

危険を伴うとき、人の心を傷つけたときは、すぐに止めて、気持ちを落ち着かせましょう。その後でお互いの話を聞き、相手の痛みや思いに気付くように知らせていきましょう。

けんかは基本的にはやらせておく。しかし、その後の悔しい気持ちを一人ひとり、しっかり聞いてあげることでまた仲直りできます。

子どもがまだ2歳以下で、人とのかわりがまったくわからない時は、大人が入って、いろいろ知らせることも必要です。

「お兄ちゃんだから...」「お姉ちゃんだから...」という言葉で治めると、不満やストレスが残ります。両方の思いを受け止めてあげましょう。

好きなものならたくさん食べられるからといって、嫌いなものを避けていると栄養が偏ってしまいます。栄養をバランスよく取ることは、体の発育に欠かせない大切なことです。

嫌いだからとあきらめないようにしましょう。

- ・ 子どものためと考え、食べさせるための言葉掛けや方法を工夫しましょう。

調理方法を工夫しましょう。

- ・ 細かくきざんでみる。
- ・ 子どもの好きなものと混ぜたり、組み合わせたりしてみる。
- ・ 子どもが喜ぶような盛りつけをする。絵本などを使って子どもに興味をもたせましょう。

「親が嫌いだから・・・」は親の勝手です。

「私（母親）は牛乳が嫌いなので家では飲ませません」。「父親が肉が好きで家では肉中心で野菜は食べません」などの声を聞くことがあります。

親の好き嫌いで子どもの食生活が偏らないようにしましょう。



全国へ発信 24

一貫教育プロジェクト

